

令和5年度 第2回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和5年8月16日 開 催

豊橋市教育委員会

第2回 総合教育会議	
日時	令和5年8月16日(水) 午後3時00分～4時30分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	浅井 由崇 市長 山西 正泰 教育長 西島 豊 教育委員 渡辺 嘉郎 教育委員 内浦 有美 教育委員 中島 美奈子 教育委員
事務局	杉浦 康夫 副市長 朽名 栄治 財務部長 種井 直樹 教育部長 浅倉 淳志 教育政策課長 伴 健太郎 財政課長 鈴木 秀典 学校教育課長 鈴木 常浩 教育会館長 ほか 6名
その他	傍聴人 6名

議事日程

□協議事項

- 1 中学校部活動と休日における地域クラブ活動への移行について

その他

- 1 今後の協議事項について

□連絡事項

次回開催日程 令和5年11月22日(水) 14:00～

(教育部長)

ただいまから令和5年度第2回豊橋市総合教育会議を開催させていただきます。それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

本日の協議事項は、「中学校部活動と休日における地域クラブ活動への移行について」でございます。資料1を事務局から説明してください。

## 協議事項

### 1 中学校部活動と休日における地域クラブ活動への移行について

#### ■学校教育課指導主事 協議事項について資料説明

(教育部長)

それでは、これらの説明に対する皆さまのご意見などをお聞かせいただければと思います。

(渡辺委員)

現在、中学校の土曜日の部活動は3時間以内ということですが、地域移行した場合は、そのような時間制限は設けられるのでしょうか。スポーツ庁も、ハイパフォーマンスよりはライフパフォーマンス、一生涯を通してやることが大事であり、ハイパフォーマンスを求めるが故に体を壊してしまうようなことがあってはならないと言っております。地域移行した場合に、そのあたりが担保されるのか気になります。

関連して、スポーツトレーナーという人たちが今いますが、理学療法士の資格を持つ方もいれば、国家資格を有しない方もいます。有資格のスポーツトレーナーが地域スポーツクラブに必ずいる体制も担保していかなければならないのではないかと思います。

(指導主事)

時間制限の枠につきましては、今のところ考えてはおりません。ハイパフォーマンス、ライフパフォーマンスにつきましては、子どもたちにアンケートをとり、ニーズを見定めた上で各関係団体の方に依頼をしていこうと考えています。

(渡辺委員)

有資格のスポーツトレーナーがスポーツクラブに配置されていること、配置されていないのであれば配置するようにして、運動に対する安全性を担保していく必要があると思います。心身ともに発達途上の子どもたちにとって一番大事な時期に当たるので、そこで体を壊して一生涯運動できないということになってしまったのでは元も子もありませんから、その部分は大変大事になってくるかなと思います。

(指導主事)

そののところにしましては、総合型地域スポーツクラブ等が中心になると思いますので、「スポーツのまち」づくり課と連携して取り組んでいければと思っております。

(山西教育長)

今渡辺委員がおっしゃった「3時間が守られるのか」というのは、土曜日の部活動を地域移行した場合のことをおっしゃっていますか。

(渡辺委員)

土曜日だけではなく休日もそうなのですが、やりすぎにならないよう歯止めをかけられるのかどうかという意味です。

(山西教育長)

もう一つ、地域のスポーツクラブ等にもスポーツトレーナーを配置するべきということですが、スポーツトレーナーの配置の有無を教育委員会で把握しておくべきということでしょうか。

(渡辺委員)

そうです。スポーツトレーナーにも色々な方がいて、最近では、パーソナルトレーナーという方たちが指導をやりすぎて体を壊してしまったケースもあります。発達、発育途上の子どもたちの体を守るためにも、どのような資格を持ったスポーツトレーナーがいて、どのような安全面の配慮をしてくれるのかというところを、教育委員会としてしっかり把握しておかなければならないのではないかなと思います。

(中島委員)

私も、渡辺委員がおっしゃった安全面、健康面、体調面のところは気になるところだなと思いました。そして、もう一つ費用面についても気になるところがあります。

中学校は全員が通いますので、活動に参加しやすい場所だったと思いますが、地域移行した際に自ら動いていくことが困難な家庭については、送り迎えなどの問題から、子ども「の行きたい」という気持ちを叶えてあげられるのかというところは気になります。

(指導主事)

総合型地域スポーツクラブにつきましては、学校施設を使うことが多いかなと思います。参加の機会につきましては、体育の授業の中でスポーツをみんな平等に受けられるというところは保証されておりますし、平日については、学校での部活動を継続していきますので、担保されていると考えています。

(中島委員)

現時点で、部活動に参加している生徒の割合はわかりますか。中学校は学校教育の一環として部活動が位置付けられていますが、豊橋市は他市町村と比べてどのような感じなのか教えてください。

(指導主事)

細かい数は把握しておりませんが、部活動検討委員会で中学校の先生方へヒアリングした感覚からだと、九割五分くらいは参加している感じでした。

(西島委員)

国のガイドラインに則って進める必要があるということで、私としても、先生方の多忙化に対して環境を良くしてあげたいという思いがありますが、その目的は、生徒たちに対してどのように質の高い教育を与えられるのかというところにあると思います。

中学校部活動の地域移行は、先生方の多忙化解消の大きな要因になると思います。一方で、子どもたちの可能性や成長に関しても話をしていかないと誤解を生みやすいのではないかと感じます。

説明では、中学校部活動の地域移行は学校管理下外ということが明確にされています。子どもたちが自分たちで選べるから、色んな可能性に挑戦できるというのは良いのですが、民間の会社はビジネスですから、大人たちも含めた利用者が既にいたりして、環境によっては、生徒たちが十分に希望を叶えられない可能性も出てくると思います。

学校管理下からは離れるのだけでも、行政やスポーツ協会も含めた形の中で、安心して子どもたちが参加できる体制にしていくことが、すごく大事なのかなと感じました。

(内浦委員)

地域移行に伴う費用に関しては未定なのでしょうか。

(指導主事)

有料のクラブもありますし、総合型地域スポーツクラブや陸上クラブなど、現在も無料で行っているクラブもあります。どのクラブに参加するかによって変わってくると思います。

(内浦委員)

受け入れのことで話題になったりすることはありますか。また、中学校で入部している部活と地域クラブ活動は同じものでなくてもよいのでしょうか。

(指導主事)

今年度中に実施予定のアンケートにおいて子どもたちのニーズを把握し、既存のものでそのまま対応可能なのか、それとも少し広げていかなければいけないのかを明らかにしたいと考えております。広げていかなければいけない時は、それぞれの団体に情報を共有していかなければいけないと思います。

ただ、現在も土曜日の部活動は月2回で、部活動がない土曜日については、やりたい子は地域に出て活動をしていますので、すごく広げなければいけないということはないという見通しは持っています。

(内浦委員)

受け入れ側の反応はどういった感じですか。

(指導主事)

全ての団体に聞いてはおりませんが、中学校の部活動にはないアーチェリーなどの種目を扱う団体の方は、今回はチャンスなので、是非広げてやっていきたいと話されていました。

(内浦委員)

現在の部活動の所属人数と、各種団体に加盟しているクラブチーム数を見比べると、陸上や吹奏楽など、所属人数に対してクラブチーム数が少ないものがありますが、大丈夫でしょうか。

(指導主事)

アンケートを実施してみないと分かりませんが、吹奏楽については、現状のクラブでは対応できない可能性があるかなと思っております。

(内浦委員)

もう一つ意見ですが、ボランティアやインターンシップも選択肢に含めていただきたいと思います。キャリア教育的な視点を含む活動機会の提供を、市がバックアップして手厚くやっていただければ、子どもたちの世界が広がると思います。

(教育部長)

我々が考えているのは、地域クラブや民間事業者が主体となるイメージですが、内浦委員のご意見は、市区町村が様々な団体や機関と連携して指導員を現場に派遣するイメージなのでしょうか。

(内浦委員)

スポーツや文化的活動については地域クラブや民間事業者が主体となるイメージで、ボランティア活動やインターンシップについては、市が連携するイメージです。

(中島委員)

私も、部活動以外の取り組みで、子どもたちがどのようなことをしてみたいのか考えるのはあってもいいと思います。

(山西教育長)

土曜日も部活動と同じ種目をやりたいという子どもは同種の地域クラブなどへ参加する、違う種目をやりたいという子どもは違う活動に参加する、ボランティアなどがやりたい子どもはそれに参加する、それで良いのではないかと思います。また、教師も含めて、土曜日も部活動があるという発想はなくすべきだと思います。

(内浦委員)

経済や時間の面で余裕のない家庭もあるので、そういった家庭の生徒への機会提供は行政が主となって行っていただきたいと思います。

(浅井市長)

ラーケーションもだが、家庭の事情で子どもの経験に差が出るのが想定されます。

(中島委員)

経済格差が教育格差に繋がっているということは現実にありますね。

(西島委員)

土曜日に生徒が参加するクラブや団体などは、生徒や保護者が自主的に探すのか、教育委員会がある程度リスト化して周知するのか、どちらでしょうか。

(教育部長)

部活動の地域移行がベースになっておりますのでボランティアなども含めるとなると、リストに載せるか載せないかの線引きが難しいです。

(浅井市長)

リストに掲載されるクラブや団体は経年で増えても良いのではないかと思います。地域全体が協力して多様な選択肢があるということが理想的であり、そのためにも、聞き方

を含め、アンケート調査によるニーズの把握は重要です。

土曜日の部活動を地域移行するところからさらに進んで、生徒たちが、自分たちの成長のために土日をどのように過ごすか、そのための環境を整えられると非常に良いと思います。

(教育部長)

それでは、本日の会議の総括を市長にお願いしたいと思います。

(浅井市長)

本日は、「中学校部活動と休日における地域クラブ活動への移行」について、協議をさせていただきましたが、忌憚のない意見がでてきて、大変有意義な意見交換ができたのではないかと思います。

費用、受け皿、送迎といった実施に関する課題や、活動のやりすぎによる子どもの体への負担といった子どもの成長に関する課題など様々なものがありますが、まずは、どのような子どもを地域とともに育てたいのかをしっかりと示し、そして協力してくれる人や団体を増やして、地域を巻き込んで進めていければと思います。

#### **連絡事項**

- ・ 次回開催日程 令和5年11月22日（水）14:00～

(教育部長)

以上で、令和5年度第2回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。